

第二回 先進的企業 視察レポート①

<目 的> 社員とその家族を大切にしている取り組みを行っている企業を視察し、自社の社員定着および育成へ向けた取り組みのヒントとする

<視 察 日> 平成 28 年 12 月 9 日 (金)

<視察人数> 13 名

<視 察 先> 株式会社 ひびき精機

<http://www.hibikiseiki.com>

山口県下関市菊川町

(資 本 金) 7500 万円

(設 立) 昭和 47 年 (創業 昭和 42 年)

(従業員数) 73 名

(業 種) 半導体製造装置関連部品・航空宇宙関連部品
・各種精密機械部品製造



《第二工場》

平成 26 年 6 月竣工

最新鋭の機械が立ち
並んでいます！

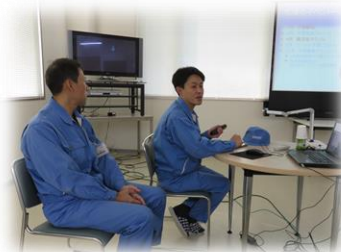
株式会社 ひびき精機様は、平均年齢 32 歳と若い社員が多い会社です。

こちらの会社では、お客様のニーズに応えると共に社員のインセンティブおよび社員のモチベーション向上のため、マンツーマシンを目指して**最新鋭の工作機械を積極的に導入**されているそうです。億単位の機械もたくさんありますが、経営が厳しい時こそ設備投資をされてきたそうです。

社員の方のお話によると、「新しい機械を扱うことは、新車に乗るような感覚でモチベーションがUPする！」
そうです。あっ！それってわかりますよね！

新人社員の指導には、年齢が近い社員がされるそうで、ベテラン社員になると、設計・企画等のすべてをこなし、機械一台を任されます。

それは若手社員にとってあこがれであり、“**なりたい自分**”を思い描きやすい姿となっているようです。ですから、“なりたい自分”のため常に**スキルアップ**を意識し、**努力**を続け技術・技能の伝承がされていくのだそうです。





株式会社 ひびき精機
松山英治社長です！

そして「その“技術が社員一人一人の財産”になる」と松山社長はおっしゃっていました。

松山社長は『人が資本、人が財産だという信念のもと、正社員採用にこだわり、職人を育てている』とおっしゃいます。

経営が厳しい時に、周囲の企業がリストラをする中で松山社長は「一人も辞めさせなかった」そうです。



でも、それが
再建への近道だった！

「景気が上向きかけ、仕事が舞い込んだ時に
社員がいたからすぐに対応出来た」とも。
人の力ってすごい！

松山社長は、若い人がここで働きたいと思うにはどうすれば良いかと考え、まずは**職場環境を変えてみよう**と、平成5年に冷暖房完備の工場を建てられたそうです。当時では珍しく、周囲からはあきれられたとか。

また、リピート的な仕事にすれば若い人にも出来るだろうと大手企業と契約。その契約の際にポイントとなったのが意外にも**冷暖房の完備された綺麗な工場**だったそうです。工場を見て一発で契約が決まっただけです。

確かに本社工場、第二工場どちらも綺麗に整備され、「ここで作られる製品なら大丈夫」と信頼されたのでしょね。



交代勤務があるため、情報共有は大切です！作業状況が一目でわかるよう工夫されています
また、**経営理念・社是**が、目に付く場所に置かれています



毎年皆さんで考えられた標語が あちらこちらに貼られています

松山社長がよく座っていらっしゃる席から総務部門、営業・管理部門、工場内とすべてガラス張りで、見渡せるようになっています



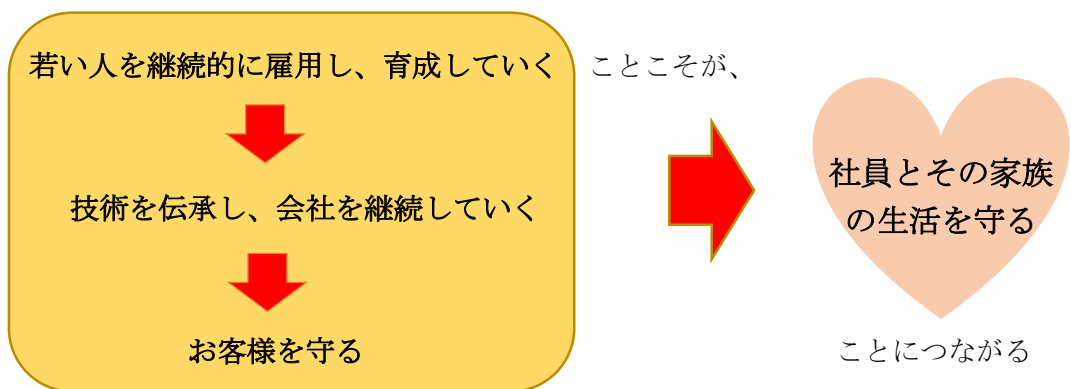
“見える化”の工夫もバッチリ！

若い人が多くなり、次に松山社長が考えられたのはコミュニケーションを図ることです。地理的に車通勤が多く、また周囲にお店も少なく、みなで飲みに行くことも難しいことから、松山社長は年に4回社員全員で行う一泊二日の合宿を始められました。

伺うと、この合宿では、毎回お題を決めてみんなで意見を出し合います。テーマは様々で、仕事については30%位で、70%はいろんな事で、例えば『なぜ人は失敗をするのか』『人としてどう生きるべきか』等だそうです。ちょっと難しそう…

合宿では“気づき”を目的とし、結論は出さないそうで、その後はお待ちかねのアルコール登場!!
こうやってコミュニケーションを図ることで一体感が生まれると共に、技術だけでなく心の育成にも一役買っているそうです。

このようにして

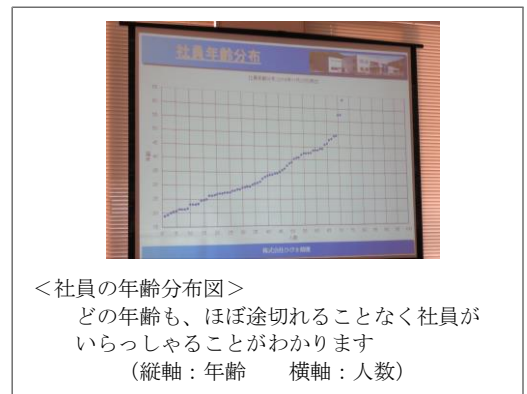


とお話していただきました。

最後に将来の目標は、

- ① つぶれない会社にする
(世の中に必要とされること)
- ② 身の丈成長の実現する
(社員100人を目指し、技術伝承の実現を図る)
- ③ 会社の発展と社員の幸福をバランスよく築く
(頑張る人が報われる)

ことだそうです。



松山社長をはじめ、社員のみなさんが一丸となって目標に向かわれる姿を想像すると私までワクワクしてきました。



株式会社 ひびき精機のみなさん
ありがとうございました。

